

西江大学校語学研修についての報告書

－2011 年 3 月 1 日～26 日－

学籍番号 1 2 1 0 1 0 0 1 5 5

商学部 2 年 2 6 組 1 6 番 高瀬 真



西江大学校

1、費用

授業料 約 65,000 円

宿泊費 約 55,000 円

航空券 65,000 円

成田駅での宿泊費 3,300 円

パスポート 11,000 円

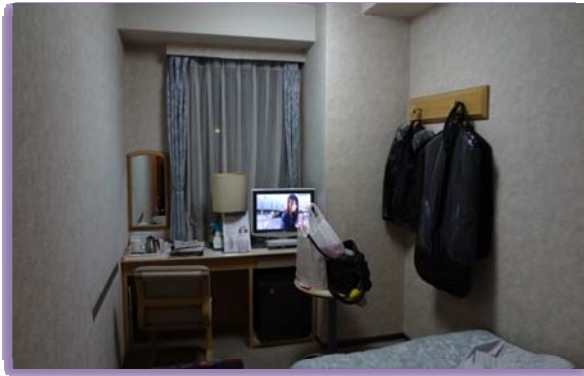
キャリーバック 10,000 円

現地での生活費 20,000 円

現地での交際費 15,000 円

西江大学の教科書代（これは3、4、5級の内容を自分で勉強するために購入）約 3,500 円

合計約 253,300 円



↑ 朝9時の便だったので、
前日に成田駅近くのホテルに宿泊

↓100 リットル以上入るキャリーバック
（写真左のピンク色）行きは約 20 キロ、
帰りは約 30 キロになりました。



2、クラス構成（私のクラス）

日本人（私を含め 6 人。他のクラスより少し多い方。普通は 4 人ほど）、アメリカ人（2 人）、台湾人（2 人）、カナダ人（2 人）、フィリピン人（1 人）、インドネシア人（2 人）、フランス人（1 人）、オーストリア人（1 人）で、計 16 名でした。

韓国の他大学の語学研修の場合、日本人は日本人同士で同じクラスを編成するようですが、ソガン大学校はこのような世界各国（70 余カ国）からの学生が同じクラスに入るため、韓国語の勉強だけでなく、クラスの生活を通じて世界中の人たちと自然に国際交流の仕方を身につけることができるのです。私が世界中の人々をこれほど間近で接するのは、生ま

れて初めてです（そもそも外国に行くのが初めてでした。パスポートも初めて！）。

《写真をたくさん=1000 枚以上！！ 撮りましたので、ぜひご覧ください。》



↑ クラスメイトとの集合写真
（中央のネクタイ姿が私）

↓ このようにユニークな先生にも恵まれて非常に楽しく授業ができました！



↑ フランス人の学生とインドネシア人の学生の会話の様子（普段の会話も韓国語で）



↑ アメリカ人の学生のケイティーさ



↑ 日本人学生のみほさん

(私たちは今回明治大学生数人で行ったためにそこまで大きな不安はなかったのですが、本来は一人で行くために、自分よりも先に現地に住んでいる日本人の方からいろいろ生活の術を教えていただけるので、ある意味では日本人学生が多いのも良い点である)

3、時間割

授業は、書き（ライティング）・会話（スピーキング）・聞き（ヒアリング）の3種類に分かれている。

書き 午前9時～9時50分

休憩 9時50分～10時

会話 10時～10時50分

休憩 10時50分～11時10分

会話 11時10分～12時

休憩 12時～12時10分

聞き 12時10分～13時

一クラスにつき、書きの先生が一名、会話の先生が二名、聞きの先生一名がそれぞれの授業を一人で行う。授業中は先生は当然のこと、学生同士の会話も韓国語のみで行われる。

4、授業内容

一番最初の授業では一級での内容の確認とおさらいをし、一級で学んだ主な単語の紙を配布され、分からない単語は各自でチェックをしてその後各自で確認。次の日は自己紹介を行い各自の名前と国籍を確認し合う。このときに、教科書の文法を活かして自己紹介をしてくださいと言われます。まず、名前を聞きます。その後、どこの国の人ですか？といった具合でクラス全員と自己紹介を行いました。このとき感じことは、クラスには学生が15名ほど在籍しているため、同じ人に偏らずに何回も実践として復習できるため、確実に身につけ何より忘れないと思いました。教科書には1課、2課といった感じで進んで行きます。1課を二日間かけて進めます。これは比較的授業の進みとしては早いと思われます。そのため、授業が終わった後、多いときには約十枚もの宿題が配布されたこともありました。その宿題は翌日提出をし、先生が確認後、先生の手渡しで学生個々人に返却されます。

そのときに驚いたことは、当然と言えば当然ですか、宿題での個々が書いた内容全てに先生が目を通してしっかりと直しが行われている点です。一度授業が終わった後に先生方がいらっしゃる教室へ行って見たのですが、本当に一生懸命私たちの宿題を確認し、直しを入れていました。

また実践的な会話で、道案内や買い物等、教室を実際のスーパーや道のようにセッティングを行い、その場にいるかのような状況を作り出し授業を行ったこともありました。

その度日常生活に必要な単語を覚えていき、楽しく学ぶことができました。

書きでは主に文法、文章を書くことを学びます。その後会話の授業でその学んだ文法を活かして授業をやります。ここで思ったことは、先生が 3 人いるにも関わらず、先生同士のバトンタッチがしっかりとしている点です。

第1課

自己紹介と共に、母音と子音の名前の確認。

例) 先生がクラス全員の名前が記入された用紙を配布。わたしならば、先生が真 (마고토) のように記入してあり、それを私が他の学生たちに韓国語で、
고가아니예요. 기억이아니고, 키웁이예요.

こういった具合で全ての学生同士と教室を歩き回り互いに自己紹介する。同時に、母音、子音の名前を覚える。また自己紹介を行う際に、自分の携帯電話の番号も韓国語で相手に教える。

第2課 文法～고 있다, 은 다음에～으려고

第2課から文法を学び始めました。第2課では、私たちが学校に早く来てしまい、偶然に友達に遭遇したという設定が中心でした。この文法を使用して会話の練習を行いました。

A : 한스 씨는 수업이 끝난 다음에 뭐 하세요?

B : 회사에 가요.투안 씨는 뭐 하세요?

A : 저는 요즘 시험을 준비하고 있어요.

B : 아,그러세요?

A : 네,한국 화사에 들어거려고 시험을 준비해요.

このような会話を練習しました。

第3課 文法을 때, 기 전에, 아/어서,

この課では、上記の文法を使用して、時間があるときなにをしますか？学校へ行く前に何をしますか？家に帰ってテレビをみます、といった会話をみんなができるようになります。最後にはこの3つの文法を全て駆使して会話をしてくださいと言われ、

A : 일요일에 뭐 하셨어요?

B : 친구 만나서 영화를 봤어요. 한스 씨는요?

A : 저는 에버랜드에 가서 놀았어요.

B : 재미있었어요?

A : 네, 재미있었어요.

B : 그런데 돌아올 때 길이 많이 막혔어요.

このぐらいの会話ができるようになります。

第4課 文法으면, 을까요, 을거예요, 다가,

ここでは、地下鉄の乗り換え、道案内を中心に会話の練習を行いました。

地下鉄の乗り換え

A : 진훈 씨, 2호선을 타면 이사동에 갈 수 있어요?

B : 아니에요, 가다가 한 번 갈아타야 돼요.

A : 어디에서 갈아타요?

B : 을지로 3 가에서요.

거기에서 3 호선으로 갈아탄 다음에 안국 역에서 내리세요.

A : 감사합니다.

道案内

A : 저기 죄송한데요, 이 근처에 은행 있어요?

B : 네, 있어요.

A : 어떻게 가야 돼요?

B : 이 길로 쭉 가면 사거리가 나와요.

사거리에서 오른쪽으로 가면 있어요.

백화점 건너편에 있어요.

A : 여기서 멀어요?

B : 아니요, 가까워요.

A : 감사합니다.

最終的にはこのような会話ができるようになりました。先生から各自、韓国の地下鉄名と、何号線かが記入されている用紙が配布され、その紙を持って、ここに行くには、どこで乗り換えて行けば行けますよ、といったような感じで練習を行いました。

第5課 文法는것, 기로 했어요, 으니까, 읍시다,

A : 미니 씨, 축구보는 것을 좋아하세요?

B : 네, 왜요?

A : 그럼, 오늘 같이 축구 보러 가요!

B : 미안해요. 오늘은 다른 친구하고 만나기로 했어요.

A : 그럼, 다음에 같이 갑시다.

B : 네, 다음에 갈 때 꼭 알려 주세요.

第5課ではお互いに約束をする練習を行いました。

第6課 文法아/어도 되다, 으면 안 되다, 은데요, 는데요,

A : 선생님, 오늘 한 시간 일찍 가도 될까요.

B : 왜요? 무슨 일이 있어요.

A : 공항에 친구를 마중 나가야 하는데요.

B : 그럼 할 수 없지요. 그렇게 하세요.

第6課では何々をしてはいけませんと言った内容を中心に練習しました。授業の終わりには、教室でやってはいけないことをそれぞれ書いて、教室に貼りました。

第7課 文法아/어 드릴까요, 이/저/그, 색깔

A : 어서 오세요. 손님, 뭐 찾으세요.

B : 반바지 있어요?

A : 무슨 색으로 보여 드릴까요?

B : 베이지색이요.

A : 네, 이쪽으로 오세요. 이거 어떠세요?

B : 입어 봐도 돼요?

A : 물론이지요. 저쪽에서 입어 보세요.

잘 어울리세요, 손님.

B : 그래요?그럼, 이걸로 주세요.

この課では、隣のクラスへ行って、一方のクラスの半分の学生が店員を演じ、残りの半分の学生はお客さんを演じてロールプレイングで買い物を韓国語で行いました。その際に、先生が色々な服や帽子などの品物をもってきて、実際の買い物のように行いました。

↓ 私のクラスの授業での買い物の様子



↑ このように実際にマフラーや帽子などを学校が準備して行った。

私が勉強したのは、以上第7課までです。流れとして、まず、書きの時間で文法を学び、二間目の会話でその文法を確認、三時間目の会話の授業で、実際に教室内で席を立ち、みんなと会話して練習、そして、四時間目の聞きの時間でその日に学んだ文法を含んだ会話を先生がCDで流し、学生はそれを配布された紙の空欄に記入していくという流れです。本来は中間テストと期末テスト（卒業テスト）のようなものがあるのですが、中間テストは今週行われたようです。そのため、本来ならば卒業するために宿題をしっかりと済ませ、テストのために勉強するというものもあるのですが、私達のように短期の場合、どうしても宿題を全てやれないといった問題点もあると思いました。しかしその反面、自分なりの行動が行えるので、私のように、既に二級の文法はある程度理解していて、宿題をやるよりも、外に出て現地に住む韓国人の方たちと交流した方がよりよいと思える状況下にあるならば、よりよい結果が得られるとも感じました。実際私は、宿題をあまりやらずに、韓国人の方たちと交流したために、会話の練習をたくさん行うことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。



↑ 最後の授業終了後、私達明治大学生を国際電話による試験の時から面倒を見て下さったチョン先生と明治大学生みんなと食事後、修了証書をいただきました。

5、Language exchange（語学交換）というパートナー

この制度は、西江大学で外国語（日本語）を勉強している学生達と、私達のような韓国語を勉強している学生同士が1対1のペアとなって、日本語と韓国語を相互に勉強し合うことへ導入してくれるシステムです。

また、この Language exchange システムは、単に語学の勉強をするための相手としてだけでなく、実際の友達となり、食事をしたり、どこかへ一緒にいたり、学生次第でどんなこともできるシステムです。勉強の枠を超えて、お互いの国、言葉を理解することができたため、とても有意義な時間をこの制度によって過ごすことができたと思っています。日本へ戻ってからは、韓国でせっかく学んできた語学と関係を維持するために Skype（スカイプ）で連絡を取り合い、お互いに相手の言葉を用いて話しながら、日本と韓国について日常のことや文化・社会など多方面に渡る話題を取り出し、様々なことについて勉強しています。私の Language exchange パートナーは西江大学 4 年生の女子学生ですが、彼女が日本へ来るときには、ぜひ再会したいと願っています。

また、今回参加した明大の学生達みんなと韓国で知り合った学生達みんなグループによるおしゃべり・バン（房。部屋）を Face book（フェイスブック）を用いて運営し、ハングルによる文字会話を交わし、各自韓国語の実力を試しています。

もちろんこの Language exchange システムは日本語母語者だけでなく、英語母語者の場合も同じです。今回私と友達になった同じクラスのインドネシア人の女子学生の場合は、Language exchange パートナーである韓国人学生に英語を教え、反対に韓国人の学生から韓国語を教えてもらっていると聞きました。もちろんこういった私と彼女との間の会話も韓国語で行っていました。また彼女はトンアリ（サークルのようなもの）にも所属し、そこでも彼女の好きなことをやりながら韓国語を勉強していると聞きました。やはり彼女がそうやって日々努力をしている姿を横からみていて、いい刺激を受けました。また私と彼女とは簡単な会話だけでなく、様々な話をすることができたので非常に楽しかったです。西江大学では、このように私達を含めた短期滞在の外国人学生も正規学生達が運用するサークルに加入することができるなど、自分次第で語学はもちろん、韓国人だけでなく外国人との国際コミュニケーションをどんどん成長させることができる場所であると、実感しました。

今回、一ヶ月という短い期間ではありましたが、本当に素晴らしい経験ができたと思っています。あえて改善点を言うならば、やはり、宿舎は今回のような日本人同士で住み込んでしまうと、どうしても日本語で会話をしてしまいます。一緒に生活している学生同士の韓国語のレベルが近ければお互い練習などできるかもしれませんが、今回私達はみんなそれぞれレベルが異なりました。やはりハスクチップ（下宿屋）のように現地の人が営ん

でいる所で泊まりながら、常に韓国語しか話すことができない状況に置かれていればもっとよい結果が得られたと思います。それとやはり、日本語を話すことができない現地の人と友達になることも、とても重要であると感じました。留学生や日本語ができる人々と一緒にいると、どうしても甘えて日本語を使ってしまうことが多々あります。しかし、日本語を使えない人とは、辞書を片手に会話をしなければならなかったのも、私にとっては一番の勉強になったような気がします。なにより一番楽しかったですし、勉強になりました。今度またこのような機会があれば、是非行きたいと思います。



←左がパートナーの方、右が齋藤さん

左が末広君、右がパートナーの方 →



←左が私のパートナーの方、右が私

それぞれ日本に帰った今でも、S k y p eやF a c e b o o k等、何らかの形で連絡を取っています。

6、文化

韓国には兵役というものが存在します。私には一番お世話になった明治大学に留学している韓国人の先輩と、一番仲の良い韓国人の友達がいました。しかし、その二人とも今年から兵役に行ってしまいました。先輩とは、会う最後の日にソウル駅で見送りました。たったの一年間しかお付き合いのない人なのに、思わず泣いてしまいました。日本にいれば、ただ単に先輩が兵役へ行ったということをメールなどの文章で見て終わりだったでしょう。友達の場合もそうです。本当に悲しくて辛かったです。私のように一年間交流した人間がこれだけ悲しむのです。先輩や友達の家族はどれだけ悲しい気持ちになったことでしょうか。



↑ ソウル駅で兵役に行く先輩（左。明大商学部留学生）とのお別れ。（ここで列車に乗って軍隊の集合場所へ行くので、先輩にとってこれが民間人として最後の写真です）

今回の語学研修中、知り合いの留学生の家にも一度遊びに行ったことがあります（2泊3日）。そのときにその友達のお兄さんの部屋に案内されたのですが、特別な雰囲気を感じました。なぜならそのお兄さんは今兵役中であるので家にはいません。それにも関わらず、ご両親は毎日欠かさず部屋を掃除し、お兄さんが家を去った日の状態のままにしているそうです。ご両親はどのような気持ちなのだろうか。年に数日しか会えない息子さんの部屋を毎日掃除する気持ちとは…。これが現在の韓国の文化なのだと実感しました。韓国では、受験戦争が厳しいうえに、男性は兵役もあるため、学年と年齢が関係ありません。そのため二十歳以上で一年生という人も大勢います。また、学生はどんどん海外へ留学に行きます。短い期間ではありましたが、そういった韓国の文化をまじかに見てきて、もっと自分

から積極的に活動し、自ら海外へ行くべきなのだと、この世に生まれて初めて感じる事ができました。

また、今回の西江大学のプログラムでは、平日の午前中に授業を行い、土・日曜日は休みのため、思う存分自ら行動ができたので、語学だけでなく文化の勉強もできたことも非常に大きな収穫でした。私の場合は、週末には普段は時間がなくて行けない世界遺産に行ったり、明治大学の留学生の家に行って2泊3日で泊まりに行ったりと、余った時間をうまく使うことができました。留学生の家に泊まりに行ったときに、普段は不真面目そうな友達でも、親に対しての礼儀は日本を超えていると感じました。また、留学生はもちろん日本語を話せるので、自分と韓国語で話しているときにわからないことがあっても、日本語で質問することが可能ですが、留学生の両親は日本語を話すことができないので、本当の意味での韓国語での会話ができました。また、その時に感じたことは、語学を磨いていく上で、これからはこういった自分よりも年上の人に対しての韓国語をしっかりと身につけ、そういった人たちを相手にしていかなければならない日がいずれ訪れるということです。



↑ 明治大学留学生の自宅でご家族と記念撮影（後列左の二人の方が留学生のご両親）



← 明治大学留学生の現地の友達とも一緒に遊び、日本語をハナ話すことのできない韓国人の

方と友達になることができた。

世界遺産 水原燐城（スウォンファソン）



← 長安門（チャンアンムン）



華西門（ファソムン）→



← 華虹門
（ファホンムン）

八達門（パルダルムン）→





← 南山韓国村にて
記念撮影

イ・スンシン将軍銅像 →



← 世宗大王像

景福宮 →



7、これから西江大学校へ行く後輩のために — S k y p e, F a c e b o o k, T w i t t e r の利用の勧め

こうやって外国語を勉強している私は、このような時代に生まれて本当に幸せだと思います。なぜなら、S k y p e, F a c e b o o k, T w i t t e r などの世界中の人々と無料で気軽に交流できるツールがあるからです。私はこのたび、韓国に行く以前から S k y p e や T w i t t e r などのツールを使用していました。実際に T w i t t e r で、韓国語でつぶやくことによってこういったキーボードを使用する環境下での韓国語の技術の向上につながりました。そのため文章を作るといった観点からの韓国語は自信がありましたが、実際の会話においては練習をする相手がなかなかいないというより、まだネイティブの方を相手に練習できるような実力がありませんでした。しかし、今回実際に韓国に行き、ある程度の会話の実力をつけたことでそれが可能になりました。Language exchange で出会った西江大学校の学生達、同じく韓国語を学んだ外国人の方々、また現地で出会った韓国人の方々と韓国語の練習を日本にいながら行うことが可能です。S k y p e や T w i t t e r は無料で簡単に始めることができるため、私をはじめ、今回西江大学校へ行った多くの明治大学生が使用しています。多くの学生が今までは、日本人の友達同士で無料で楽しく電話をするといった目的で使用していたと思います。私もその一人でした。Language exchange で出会った学生は、私たちが日本に帰った後も何らかの形で連絡を取りたいと言ってくれ、私は F a c e b o o k で連絡を取ることにしました。F a c e b o o k の良い点は、写真等を豊富に数多く掲載することができ、例えば西江大学校でのクラスメイトと F a c e b o o k で友達になっておけば、彼らが掲載した写真を見て、それに対して私が韓国語でいろいろコメントするなど、帰国後も彼らとの関係が途絶えることなく続けることができるのです。そこで、Language exchange で出会った学生と F a c e b o o k で連絡しているうちに、私自身も韓国語をもっと練習したくなると同時に、パートナーの学生も日本語をもっと勉強したいという気持ちになりました。そこでお互い S k y p e を使用してまた再び Language exchange を始めることにしました。S k y p e は単に会話だけでなく、ビデオ通話も可能なので、発音するときの口の形を実際に映像を通して見せることも可能で、また会話をしながらのチャット（文字会話）も可能なため、相手が言った言葉のスペルや漢字を文字として表示して相手に確認させることが可能です。もはや S k y p e は単なる会話のためのアプリケーションではないのです。

今現在私は、Language exchange だけでなく、お互い時間が合う韓国人の方が見つかると思わず S k y p e を使用して韓国語の練習をしています。練習方法も様々で、単に今日は韓国語だけ、日本語だけと決める日もあれば、私が話す時は韓国語、相手が話す時は日本語といった方法を最近では頻繁に使用しています。この方法では、確実にお互いの話す力が早いスピードで伸びるためです。聞き取ることに限ってはお互いの母語を聞き取るので聞

題なくスムーズに進み、相手の発音や表現がおかしいときに教えてあげる場合にのみ日本語と韓国語を組み合わせて説明しています。私の場合、リスニングの練習には相手の方に桁の少し長い数字を言ってもらい、チャットで私が答えを書いて相手の方に確認してもらうという方法や、単に少し長めの文章を言ってもらい書き取りをするといった方法で行っています。当然相手の方が行う時には私が日本語を言います。このようにお互いに見合った練習方法を探し出し、S k y p eを使用すればよりよい語学勉強の効果をえることができます。

また、T w i t t e rでは、日本人である私が韓国語でつぶやいていると、知らない韓国人の方が「韓国語がお上手ですね」と私につぶやいてくることが多々あります。その後私が韓国語で話しかけ、それから友達になって会話するといったことも可能です。そうやって新しい人に出会うたびに人それぞれの韓国語の表現をはじめ、韓国人の方の考えることも知ることができ、もはやS k y p eやT w i t t e rは単なるアプリケーションではなく、語学には必須のツールの一つとなっています。i P h o n e等のスマートフォンを持っていれば、電車内でもF a c e b o o kを利用して韓国語で連絡を取ることができるため、私は長い電車の通学時間に今現在韓国に在住している方々と連絡を取って話をするとともに韓国語の勉強にもなっています。日本にいてもリアルタイムで文字のやり取りができる世界なので、なんだか会えないことを除けば韓国にいた頃と変わらない生活を送ることができています。

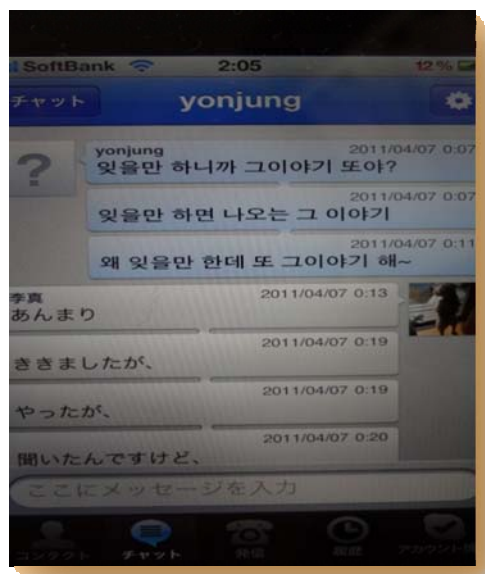


↑ パソコンを使用時のS k y p e。この場合パソコンとマイクが必要。

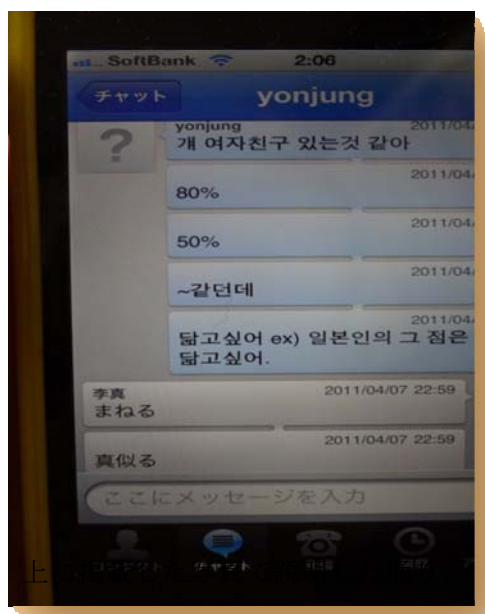


↑ i P h o n eやi P o d t o u c hがあれば、マイク等なしでこのように手軽に手

に持ったり、机の上に置いたりして使用することができる。



← このように、話しながらのチャットが可能のため 相手が言った言葉がわからない時は文字で即座に確認できる。左の場合、日本語の部分で、韓国人の方が「(それは) あまり好きじゃない」と言ったので、「あんまり」と言った方がより伝わるといった感じで教えました。「聞きましたが」と言ったので、「聞いたんですけど」がより親近感のある表現だと教えました。



← 数字の部分は、私の韓国語の練習で相手が何か数字を発音し、私が答えてその答えを相手がここに書くという形の練習方法です。日本語の部分は、韓国人の方がまねるという単語が分からなかったなので、私が漢字と読みを書きました。

S k y p e をチャットと同時に使用することでこういった勉強方法も可能です。本当に S k y p e は簡単に導入し簡単に使用することができるので、多くの学生に利用してほしいとともに、S k y p e, F a c e b o o k 等のツールはもはや世界標準として使われているものでもあります。思い切ったことを言えばこれぐらいのツールを使いこなせないようでは世界には出ていけないということでもあると思います。

また、私は西江大学校で外国語を勉強している韓国人の学生と、韓国語を勉強している外国人の方々がお互いの言葉を勉強し合える素晴らしいこの経験をまた日本でも今度は自

分が教える立場となっていきたいと思いました。まず、T w i t t e r で今年度明治大学に入学予定の韓国人留学生の新年を探して、友達になり、F a c e b o o k で少し会話をしより仲良くなり、現在はS k y p e でお互い練習し合っています。お互いが相手の言葉を完璧に話すことができないため、練習すること自体が何か新しいことをしているようで、本当に練習になり、日本にいながらも韓国に滞在していた時のような充実した生活を送っています。

今回は韓国語に重点を置いて話したのですが、これは英語にもあてはまります。なぜなら、今回の西江大学校の韓国語教育院（語学院）ではクラスのメンバーを日本人だけに固めずに、様々な国の人々が在籍するクラスで勉強するようになっていますが、そこには日本人以外で英語ができない人は一人もいませんでした。授業中はみな韓国語で話すのですが、韓国語で表現できない時や休み時間等の日常会話は英語で話している人が多くいました。そんな彼ら・彼女らと仲良くなり、交流すれば韓国語も上達し、英語も上達することができます。実際、私もいずれ西江大学校で知り合ったインドネシア人の女子学生と英語でF a c e b o o kを通して会話をしてみたいと考えています。おもしろいことに、韓国に韓国語を勉強しに行ったにも関わらず、一時的ではありますが英語圏の国へ行ったような錯覚を起こしました。またそうなることもできると確信しました。英語圏へ留学に行けば短期でも相当な費用が必要です。しかし、比較的費用の安い韓国でもこうやって英語と関わる機会は数多くあり、自分次第で英語の成長も大いに期待できるということです。西江大学校には世界中から様々な人々が来ているので、世界中の人々を、普段キャンパスを歩いていて当たり前のように見かけます。そういった意味でも、今回の西江大学校の語学研修は韓国語が主たる言語ではありますが、単に将来世界に出ていきたいという人にはぜひ一度行ってもらいたいプログラムでもあります。語学の勉強だけでも、一度に韓国語と英語を勉強できるという一石二鳥の効果があるのです。

今回、私達は語学研修という名目で韓国へ行ってきましたが、語学もそうですが、自分自身が何か成長できたような感じがしてたまりません。韓国では、自分が伝えたいこと、言いたいことを完全に伝えることができません。また、相手が言うことも完全に理解することもできません。しかし、日本ではどうでしょうか。日本語を使えば自分の言いたいことは伝わるし、相手の言葉も理解できます。一度海外へ行って、そのように自分の意志が思うままに伝わらないという厳しい経験をして来たので、日本ではこれからなんでもできるような自信がついて、私は今非常に興奮しております。

私はいままで、留学ということ自体に全く関心もなく、高い費用を出してまで海外に勉強をしに行くことに理解ができませんでした。しかし、今回このように実際に行ってみたことでその考えは百八十度変わりました。自分の国を離れ、言葉が通用しない国で生活し勉強することは、今後自分が生きていく上でかけがえのない経験になりました。

また、世界中の人々が居る場（今回で言えば西江大学校の語学院）では、本当の意味で国籍や性別や年齢は関係のないものであると実感しました。このことを、十九歳の現在に

感じる事ができたことは、きっとこの後の私の人生に大きな影響を与えてくれるであろう何かとして、すでに私のなかに入ってきていると確信しています。また現実的な問題として、英語圏に比べても本当に安い費用で行くことができ、現地でもそんなに費用がかからないため、韓国語を勉強したことがない学生でも一度このような機会を活かし、韓国へ行って、海外というものを経験してほしいです。留学は、その現地の言葉、文化、学問などを学ぶこと以上に、人生勉強ができるところでもあるんだと実感しました。

今回はこのような素晴らしい機会を与えて下さった明治大学商学部 本当に感謝しています。감사합니다!! (ありがとうございます!!)。以上を今回の私の報告書とさせていただきます。



↑ 帰国日に、仁川空港での記念撮影（全員明治大学生。4年生だった一人は前日帰国）



↑ 南山韓国村にて、韓服を着ての記念撮（私のお気に入りの一枚!）